

桂川っ子

VOL.21



自然と触れ合い、いのちを体感し、人とのかわりを深めていきます。

桂川東小学校

校長 田島久美子

「また行って、ポニーに乗りたいたいです。」「すごく楽しかったです。」「また、ポニーに会いたいです。」

嘉穂総合高校を訪問して、動物たちと触れ合った、2年生児童の喜びに溢れた感想です。

本年度から桂川東小学校は、地元の嘉穂総合高校との交流を行っています。まず最初に2、3、4年生が、毎年行っている総合学習の野菜作りで、地球環境システム科の生徒さんに来ていただき、野菜の植え方などの支援をしていただきました。

一学期は、トマト・スイカ・キュウリ・ナスを育てました。二学期は、白菜・ブロッコリー・大根・カブ・ほうれん草を育てました。土作りから、草取り、支柱たて、収穫等の支援をしていただきました。その間、高校生のお兄さん・

お姉さんと様々なお話をしたり、遊んでもらったりと、交流も深まりました。

また、子どもたちが総合高校を訪問した際には、ポニー・ウサギ・ニワトリ・ダチョウ・豚・牛との触れ合いを楽しむこともできました。

「子どもたちをポニーに乗せる高校生の柔らかな表情」「ポニーの上で、はじけるような子どもたちの笑顔」60名の小学生を乗せた、テントウムシ・ポニーと名づけられた2頭のポニーの疲れの様子「三者三様の表情でした。」

今回の嘉穂総合高校との交流では、野菜を育て、動物たちとの触れ合いを通して、『いのち』のすばらしさ・大切さを体感する貴重な学びの機会になりました。

本校の児童は、地域の方々との交流そして、支援をたくさん受けて育っています。様々な交流・かわりの中で豊かに育っています。子ども達にかかわって下さる皆様に、深く感謝いたします。今年も地域の皆様のご支援、どうぞよろしくお願いたします。

子どもの言葉が学びをつくる

桂川小学校校長 本田義隆

学校では、子どもの実態をみてそれぞれの学校に合った授業づくりに取り組んでいます。

本校では、子どもが自分の考えを持つて子ども同士で考えを鍛えなおし子どもが子どもから学びを紡ぎだす授業を目指し国語科を中心に研究しています。

第二学年の教材に「お手紙」があります。「お手紙」は、手紙を一度ももらったことがない登場人物が手紙をもらうことを知り、しあわせになるお話です。

そこで教師は挿絵を二枚使って、挿絵の相違を見つけさせました。子どもは、教科書をしっかりと読み込んで、登場人物の言葉に赤や緑のシールを貼っています。読み込んでいるからすぐに相違に気付きます。子どもは凄いです。「左の絵はさみしそう。右の絵はしあわせそう。右の絵は肩まで組んでいる。」

教師は問います。「どこでしあわせな気持ちに変わったのだろうね。」と。

その問いに子どもたちは応えます。「先生、何ページの何行目って書くんですか。」と。

嬉しくなりますね。国語科は叙述に即して読むことです。応えの根拠を言葉に見つけようとする姿、好ましい姿、国語科の学力がついている姿があります。書いている内容も素晴らしいです。

「何ページの何行目の〇〇という言葉が変わっています。そのわけは……だからです。」

いいでしょう。理由までしっかり書けています。書く力がついています。子ども同士が学びを紡ぎ出す場面。

「私はこのお手紙の言葉が人をきずつけるのではなく人にやさしいあつたかな言葉だったから変わったと思います。」

心がふるえました。子どもは子どもの言葉によって学びを深めていくのです。

こんな子どもたちを育て続けたいと思います。